



トマトの主な病害虫と 生理障害について

【指導員】 園芸課 高橋 達也

これから気温も上昇し、いよいよ夏本番を迎えます。夏野菜の定番ともいえるトマト栽培における主な病害虫と生理障害についてご紹介します。

【主な病害虫と対策】

◆タバコガ類（オオタバコガ、タバコガ）

・**症状** 年に4～5回発生し、特に夏から秋にかけて多く発生します。葉には円形や楕円形の食痕を残し、果実や茎の中にも潜り込み食害します。

・**薬剤による対策** アファーム乳剤、カスケード乳剤、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、プレオフロアブル、フェニックス顆粒水和剤などを散布します。



▲タバコガの幼虫。次々と果実を移り、被害を拡大する

◆アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ）

・**症状** 開花時に花に集まり、子房に産卵します。産卵痕の周りが白く色が抜けたようになり、果実の肥大と共に白膨れ症状となります。

・**薬剤による対策** ウララドF、カスケード乳剤、ディアナSCなどを散布します。

※雑草の草刈りや、防虫ネット、UVカットフィルムの使用も対策となります。



▲白膨れ症状があらわれた果実

【主な病気・生理障害と対策】

◆葉かび病

・**症状** 発病適温は20～25℃で、発病初期は葉裏に淡い黄色の斑紋があらわれ、その後灰褐色のビロード状のカビになります。風通しの悪い多湿条件で多発します。

・**薬剤による対策** 予防として、エコシヨット、ダコニール1000の散布、治療として、アミスター20F、カンタスDF、ベルクート水和剤、ファンベル顆粒水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布します。

※換気を良くし、密植やかん水のし過ぎを避けましょう。

◆灰色かび病

・**症状** 発病適温は20℃で、枯死した葉柄や葉、茎などから発病し、患部に灰色のかびが生じます。（落下した花弁から発病する場合も）

・**薬剤による対策** 葉かび病に準じます。

◆カルシウム欠乏（尻腐れ病、葉先枯れ）

・**症状** 乾燥や窒素過剰によりカルシウムの吸収が阻害されると発生しやすく、果実の尻部分からの腐れや葉先枯れが発生する場合があります。

・**対策** かん水による乾燥の抑制と、石灰（カルシウム）不足を防ぐ。バイカルテイなどの葉面散布も効果的です。

◆**裂果（放射状裂果、輪状裂果）**

・**症状** 乾燥後のかん水による、急激な果実の肥大によって実割れが発生します。幼果が直射日光にさらされ続けると果皮が早く硬化するため、裂果しやすくなります。

・**対策** 定期的なかん水と施肥により、葉を大きく作り、直射日光を遮ります。通路かん水なども乾燥の抑制に繋がります。



農薬は随時登録内容の変更や失効などがありますので、使用には十分ご注意ください。